

にしみたか学園



にしみたか学園

## 平成30年度 にしみたか学園の評価・検証 結果報告

検証項目	<b>1 コミュニティ・スクールの運営</b>	
目標	1 コミュニティ・スクール委員会の活性化 2 保護者、地域住民の学園参画の推進	
取組	1 「コーディネート部」の負担改善 2 承認事項内容の事前配布 3 学園ホームページの更新 4 家庭学習の時間確保（地域未来塾への派遣） 5 CSと教員の合同熟議の実施	
	成果	課題と改善方策
	1 「コーディネート部」の負担は若干改善された。 2 年間計画を配布し、承認事項内容を年度当初に確認できた。 3 学園ホームページの更新は進んでいない。 4 地域未来塾への派遣はできた。 5 開園以来、初めてCSと教員の合同熟議が実施できた。	1 ホームページの更新をコミ推部で進める。 2 CS紹介を次年度も行う。 3 CSと教員の合同熟議は次年度も実施する。

検証項目	<b>2 小・中一貫教育校としての教育活動</b>	
目標	1 三鷹市小・中一貫カリキュラムの検証（道徳） 2 乗り入れ授業 3 児童・生徒の交流活動	
取組	1 学園研究として「道徳の授業」を実施する。 2 「乗入れ授業」外国語活動と英語、体育と保健体育で実施 3 小・中一貫カリキュラムの改定 4 運動会でのボランティア体験 5 ふれあいボランティア（中→小） 6 部活動体験 7 小学生の中学校体験	
	成果	課題と改善方策
	1 学園研究として「道徳の授業」は各校で1回研究授業ができた。 2 「乗入れ授業」外国語活動と英語、体育と保健体育で実施した。 3 小・中一貫カリキュラムの改定は進んでいる。 4 中学生による小学校運動会ボランティア体験はできた。 5 ふれあいボランティアは実施できた。防災訓練には約90名の中学生の参加があった。 6 部活動体験は1月に部活動見学として実施できた。 7 小学生の中学校体験は実施できなかった。	1 学園研究として「道徳の授業」は次年度も継続して行う。 2 「乗入れ授業」一部小学校から中学校への乗り入れができていなかった。 3 小・中一貫カリキュラムの改定は今後も継続する。 4 中学生による小学校運動会ボランティアも継続する。 5 ふれあいボランティアも継続する。防災訓練は拠点地区になるので、中学生のみならず小学生の参加を呼び掛ける。 6 部活動体験は実施時期を変更して実施する。 7 小学生の中学校プレ講座は7月に実施する。

検証項目	<b>3 (知) 確かな学力</b>	
目標	1 三鷹市小・中一貫カリキュラム 2 にしみたかスタンダードの活用による授業力向上 3 授業のユニバーサルデザイン化 (UD) による分かる授業の推進 4 主体的・対話的で深い学びの推進 5 ICT活用	
取組	1 学力調査や児童生徒による授業アンケート等の結果活用 2 スタンダードによる教員の指導の統一 3 「学習習慣の定着」のため地域未来塾に実施 4 中学校部活動の活動時間にルールの厳守 5 ICTを活用し、UDの視点に立ったわかりやすい授業展開 6 「思考の場」を増やした授業展開	
	成果	課題と改善方策
	1 学力調査や児童生徒による授業アンケート等の結果を、授業改善推進プランへの活用を行った。(中学校年2回) 2 スタンダードによる教員の指導を統一した。 3 「学習習慣の定着」のため地域未来塾を実施した。 4 中学校部活動の活動時間にルールの厳守はできた。 5 ICTを活用し、UDの視点に立ったわかりやすい授業展開を進めた。ICT機器の活用は英語や社会を中心に進めることができた。 6 「思考の場」を増やした授業展開について、授業観察を中心に指導改善をすすめた。	1 学力調査や児童生徒による授業アンケート等の結果活用を進める。(中学校年2回) 2 スタンダードによる教員の指導の統一は継続する。 3 地域未来塾は継続発展させる。 4 中学校部活動の活動時間にルールの徹底を図る。 5 ICTを活用し、UDの視点に立ったわかりやすい授業展開を進めた。 6 「思考の場」を増やした授業展開をすすめる。

検証項目	<b>4 (徳) 豊かな人間性</b>	
目標	1 考え議論する道徳 2 いじめの早期発見・早期解決 3 情報モラル教育 4 自己有用感の醸成	
取組	1 学園研究を通した、「道徳における」思考力を高める授業の実践 2 いじめの早期発見早期解決を図る。 3 スマートフォン等情報機器活用教室の開催 4 学校行事等で、児童・生徒が「主体的に考え活動する」場の設定	
	成果	課題と改善方策
	1 考え議論する道徳は学園研究において実践が始まった。 2 いじめの早期発見はQU等各種アンケートにより発見できているが、解決には時間を要している。 3 セーフティ教室等で情報モラル指導を行った。 4 発達段階に応じて、児童・生徒に授業や行事を通して「主体的に考える」場の設定を行うことができた。	1 道徳は学園研究でさらに研修を深め、週1回の指導案検討を取り入れ、実践する。 2 いじめの解決のため、丁寧な対応と未然防止のためのスキルトレーニング等を導入する。 3 情報モラルについては家庭と連携を深める。 4 短時間でも授業や行事において「主体的に考える」場の設定をする。

検証項目	<b>5 (体) 健康・体力</b>	
目標	1 基本的な生活習慣の確立 2 体力向上 3 給食を活用した食育	
取組	1 早寝・早起き・朝ごはんの徹底 2 生活習慣チェックリストの活用（学期始めに実施） 3 1校1取組、1学級1取組の実施 4 給食を活用した食育の推進 5 中学における部活動の推進 6 中学校における命の教育の推進	
	成果	課題と改善方策
	1 早寝・早起き・朝ごはんの徹底はできている。中学3年生は受験もあり改善ができていない。 2 生活習慣の定着は進んだ。 3 1校1取組、1学級1取組は実践できた。 4 栄養士による食育の推進はできた。 5 部活動は取り組みができています。野球部の指導員の導入ができた。 6 命の教育は中学3年生で実施した。	1 早寝・早起き・朝ごはんの指導は継続していく。 2 生活習慣の指導は継続していく。 3 1校1取組、1学級1取組は継続していく。 4 栄養士による食育の推進は継続していく。 5 部活動の取り組みは継続していく。 6 命の教育は次年度も継続していく。

検証項目	<b>6 特色ある教育活動</b>	
目標	1 オリンピック・パラリンピック教育の推進 2 教育支援及び教育相談の充実	
取組	1 オリンピック・パラリンピック教育の講師招聘 2 SCとの連携 3 小通級と中相談級との連携	
	成果	課題と改善方策
	1 オリンピアン講師は招聘できた。 2 都・市のSCとの連携はできた。週1回の校長とSCの報告も取り組めた。 3 小通級と中通級の連携は図れた。	1 オリンピアン講師は次年度も招聘する。 2 週1回の校長とSCの報告は継続していく。 3 小通級と中通級の連携は継続していく。

検証項目	7 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	1 働き方改革の推進 2 職員の育成	
取組	1 夏季閉庁日の設定 2 ノー残業デーの設定 3 教員の進行管理 4 人財の活用 5 人財の育成（主任・主幹・管理職）	
	成果	課題と改善方策
	1 下記閉庁日は実施できた。 2 ノー残業デーは水曜日に設定し実行している。 3 教員の業務管理は自己申告面接時において随時報告を受けている。 4 地域人財の活用はCS委員から職場訪問・未来塾・各種検定等で取り組めた。 5 主任・主幹・管理職の受験ができた。	1 夏季閉庁日は次年度1週間実施予定。 2 ノー残業デー次年度実施、定時退勤の励行。 3 教員の業務管理は自己申告面接時において継続する。 4 地域人財の活用は次年度も行う。 5 主任・主幹・管理職の受験を進める。 6 部活動指導員の拡大

### 平成30年度 にしみたか学園の評価・検証結果のまとめ

(1) から (7) の検証結果を踏まえて	1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと
	1 小学校・中学校・CS委員との合同熟議において、目指す児童・生徒像を創ることができた。 2 小中乗り入れ授業による児童・生徒理解と授業改善 3 学園研究による道徳の授業改善 4 地域未来塾の実施
	2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること
	1 学園ホームページの更新 2 主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善 3 小中の交流事業 4 中学校への乗り入れ 5 組織的な学園運営
	3 「2」の重点課題を解決するための改善策
	1 学園ホームページ担当者の選任 2 授業観察や研究授業による授業改善 3 小6プレ講座の実施 4 乗り入れの進行管理 5 組織担当者の選任・学園運営委員会による進行管理